

第1章 食をめぐる現状

1 社会状況

我が国の人口は減少の一途をたどっており、世帯数やその構成にも変化が見られます。また、持続可能性への意識の高まりとともに、社会のデジタル化も進展しています。

(1) 人口及び世帯構成

本県の人口は、令和5年10月に戦後初めて110万人を下回りました。国立社会保障・人口問題研究所の令和5年推計によると、令和32年（2050年）の本県の人口は84万人余りとされており、令和2年（2020年）と比較して25.1%減少するとされています。

一方、世帯数は増加傾向にあります。令和2年の国勢調査によると、1人世帯、2人世帯は増加していますが、3人以上の世帯はいずれも減少しています。

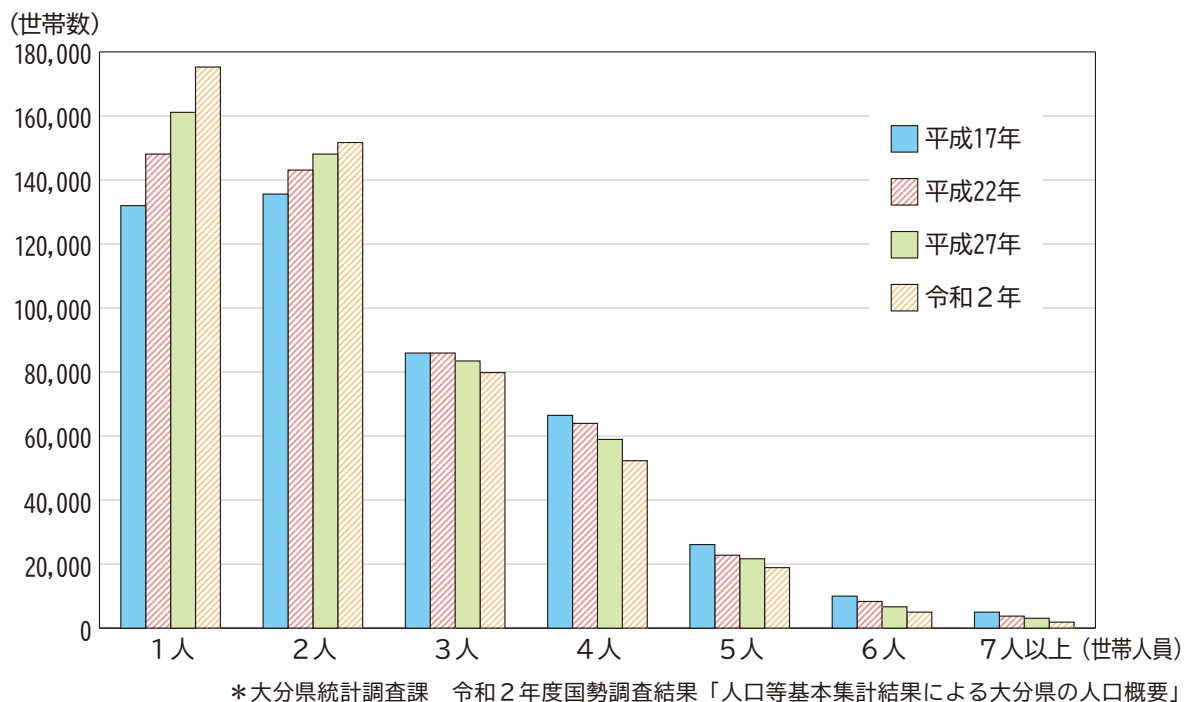


図1 世帯人員別一般世帯数の推移

令和6年10月1日現在、日本の総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は29.3%で、令和52年（2070年）には、2.6人に1人が65歳以上、約4人に1人が75歳以上になると推計されています。

また、令和6年の本県の高齢化率は34.4%で、令和32年（2050年）には40.5%に達すると見込まれています。

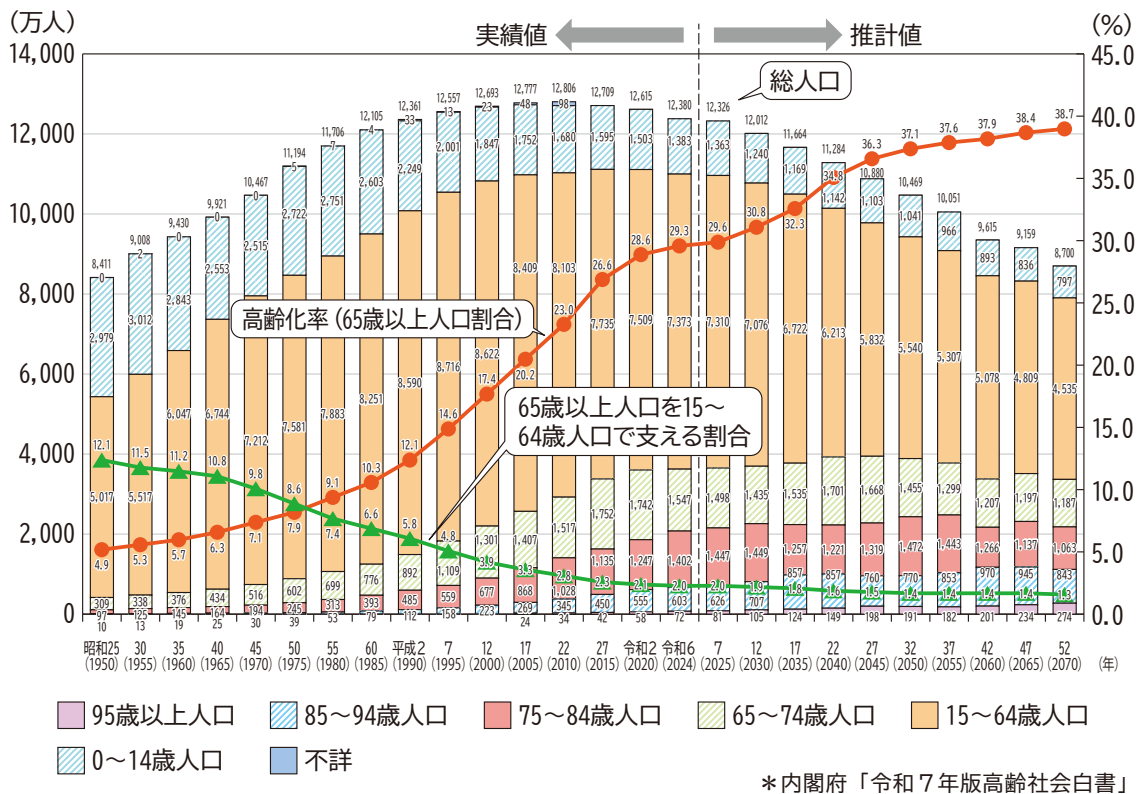


図2 高齢化の推移と将来推計（全国）

(2) 持続可能性に対する意識の高まり

地球温暖化の進行により、近年、異常気象が発生しており、記録的な猛暑や大雨、台風などの自然災害が激甚化しています。また、農産物や生態系への影響も懸念されています。環境問題の深刻化は、持続可能性に対する意識を高め、食に関する分野にも影響を与えます。

特に、まだ食べられるにも関わらず廃棄される食品ロスは、食品の生産から販売、消費等の各段階で大量に発生しており、その削減が国際的な課題となっています。国内でも年間464万t（令和5年度推計値）発生しており、食品ロスを削減することは、食品の生産や廃棄処理に係るエネルギーや二酸化炭素排出の抑制など、地球環境の保全に大きく貢献するものです。

食品ロス削減に向けた取組や輸送エネルギーの削減につながる地産地消^{*}の推進など、環境と調和のとれた持続可能な食料生産とその消費への理解を深める食育を推進していく必要があります。

(3) デジタル社会の進展

技術の進歩やスマートフォンの普及等により、テレワーク（在宅勤務など）や非接触・非対面サービスの拡大など、日常生活の様々な面でデジタル化が進展しています。情報収集やコミュニケーションの形態も変化しており、これらに対応した食育の推進が求められます。

2 健康寿命の延伸に関する状況

生涯にわたり健康で活力ある生活を送ることができるよう「健康寿命日本一の実現」に向け、適切な運動や休養とともに、規則正しい、バランスのとれた食生活を送ることが大切です。

少子高齢化など社会情勢の変化が進む中、健康づくりや生活習慣病の予防を推進することで、健康寿命の延伸を実現し、こどもから高齢者まですべての県民が心豊かに生活できる活力ある社会を実現していく必要があります。

(1) 大分県の健康寿命の状況

「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」である健康寿命は、令和元年の調査では男性が全国1位を達成（女性は4位）しましたが、令和4年の調査では男性は25位、女性は10位と順位が下がりました。

健康寿命日本一と大分県長期総合計画で掲げた目標達成を目指し、県民総ぐるみの健康づくりの推進が必要です。

表1 健康寿命（全国及び大分県）

		令和元年		令和4年		大分県長期総合計画 目標値（R15）
		歳	順位	歳	順位	歳
男性	全国	72.68	—	72.57	—	—
	大分県	73.72	1	72.37	25	75.96（あと3.59）
女性	全国	75.38	—	75.45	—	—
	大分県	76.60	4	75.94	10	78.89（あと2.95）

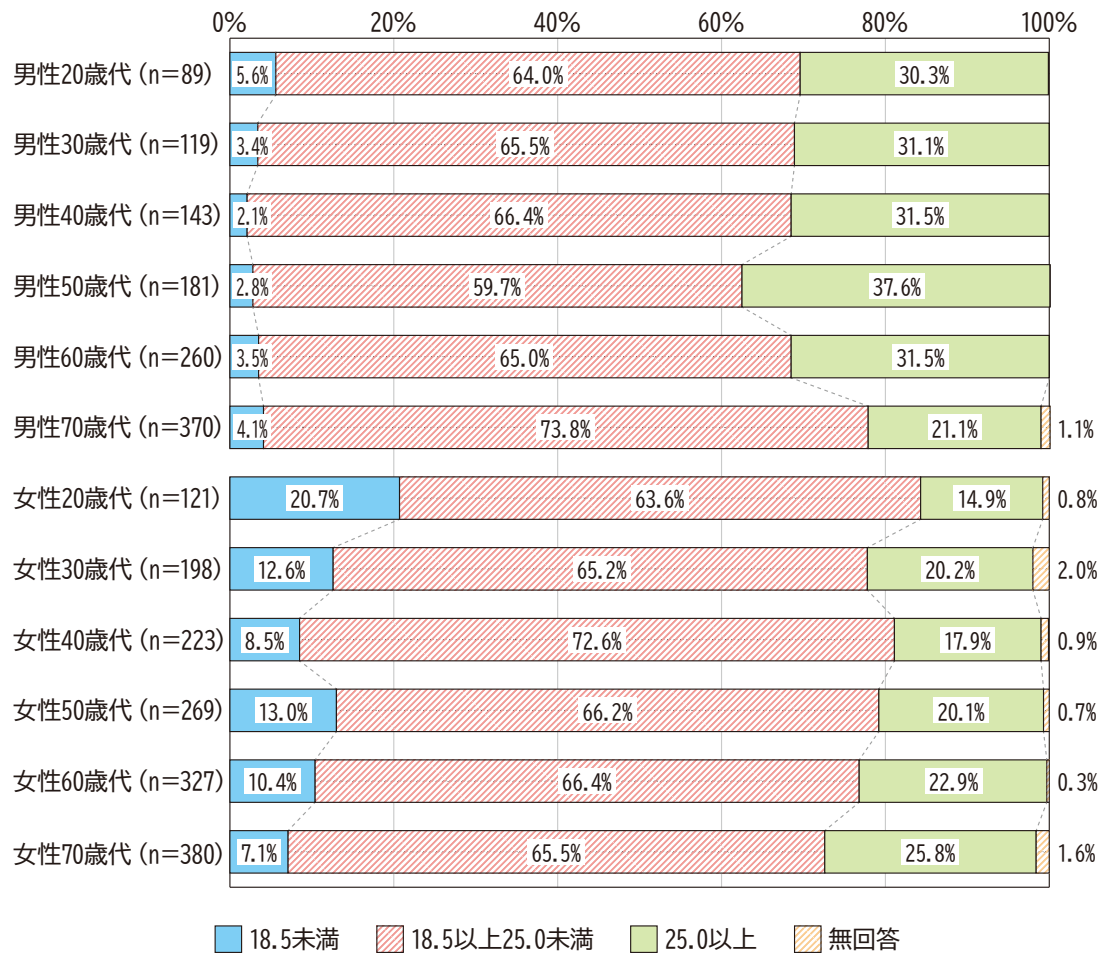
*厚生労働科学研究「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」

(2) 肥満（BMI※=25以上）とやせ（BMI※=18.5未満）の状況

肥満は、糖尿病などの生活習慣病の原因になります。特に内臓脂肪の蓄積が問題となっており、メタボリックシンドローム対策が重要となっています。

令和4年の調査では、大分県の50代男性の肥満が37.6%と最も多く、20代女性のやせが20.7%と最も多い結果になっています。特に若い女性は、瘦身願望などからやせの者の割合が増加し、妊娠・出産や、骨粗鬆症など健康への影響が懸念されています。

また、高齢者の低栄養※によるやせへの対策も必要となっています。



* 大分県「県民健康づくり実態調査（令和4年）」

図3 BMI※区分（性別・年代別）

3 栄養・食生活の現状

健康的な生活を送るためには、1日3度の食事を規則正しくとることが重要です。規則正しい食事は、望ましい生活習慣を形成します。

(1) 朝食摂取状況

朝食には、からだを目覚めさせる、生活のリズムをつくる、1日の活力の源となるエネルギーを補給する、排便の習慣ができる、体脂肪の蓄積を防ぎ肥満を防ぐ、などの役割があります。

朝食を毎日食べる県内の児童生徒の割合をみると、全国平均と比べ、わずかながら高くなっています。

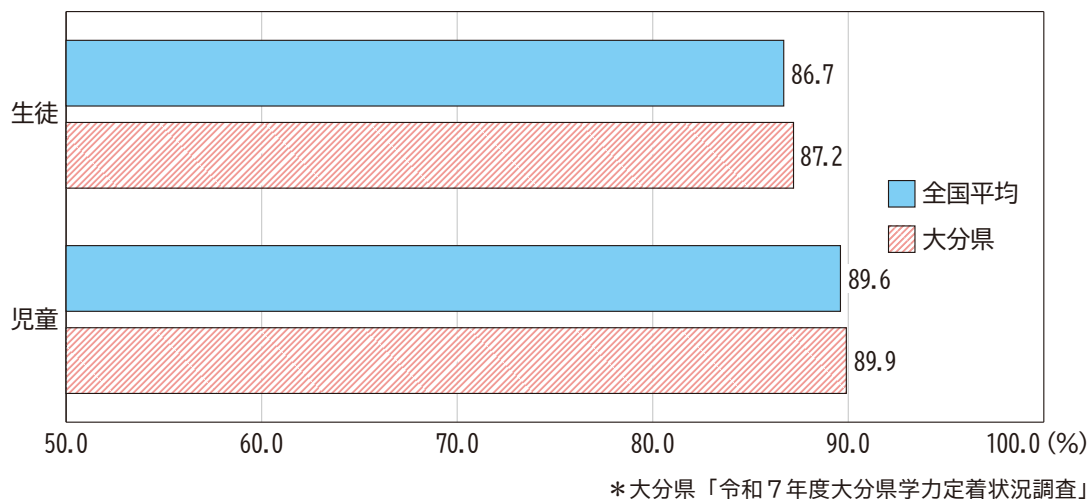


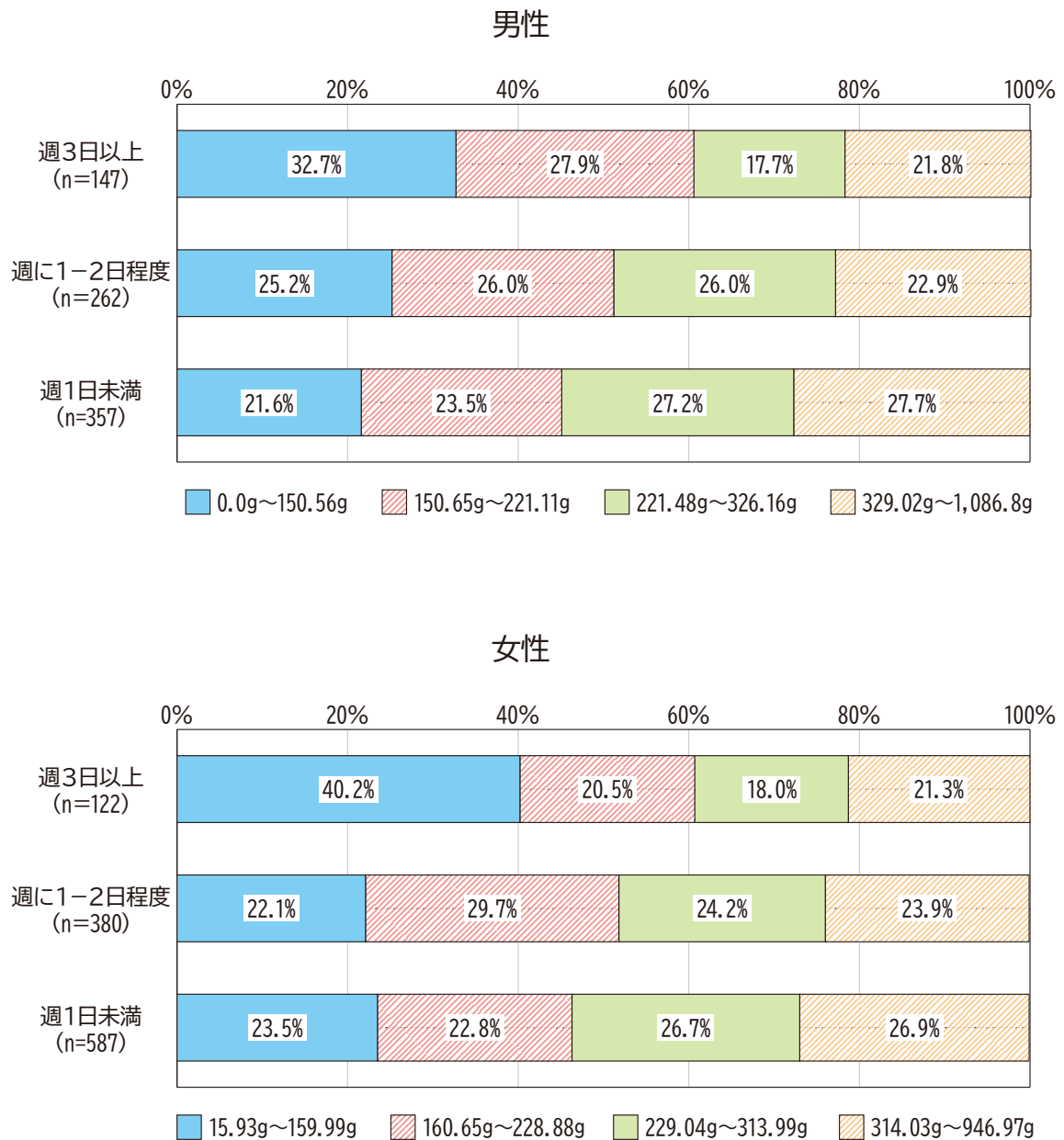
図4 朝食を毎日食べる児童・生徒の割合（全国及び大分県）

また、令和7年度に県が行った食育の推進に関するアンケート調査（以下、大分県食育推進アンケート）によると、「ほとんど毎日食べる」が79.8%、「週に4～5日食べる」が8.9%でした。また、欠食率は20、30歳代が高く、用意する時間がない、朝早く起きられない等が理由としてあげられました。

(2) 外食・中食の頻度

外食・中食（市販の弁当やそう菜のような家庭外で調理・加工されたものを、家庭や職場などに持ち帰って、そのまま食べられる日持ちのしない食品）が広く普及しています。

外食・中食の利用頻度が週3日以上の方は野菜摂取量が少なく、男性では肥満者の割合が高いことがわかります。



*大分県「県民健康づくり実態調査（令和4年）」

図5 外食・中食の利用頻度と野菜摂取量に関する状況（大分県）

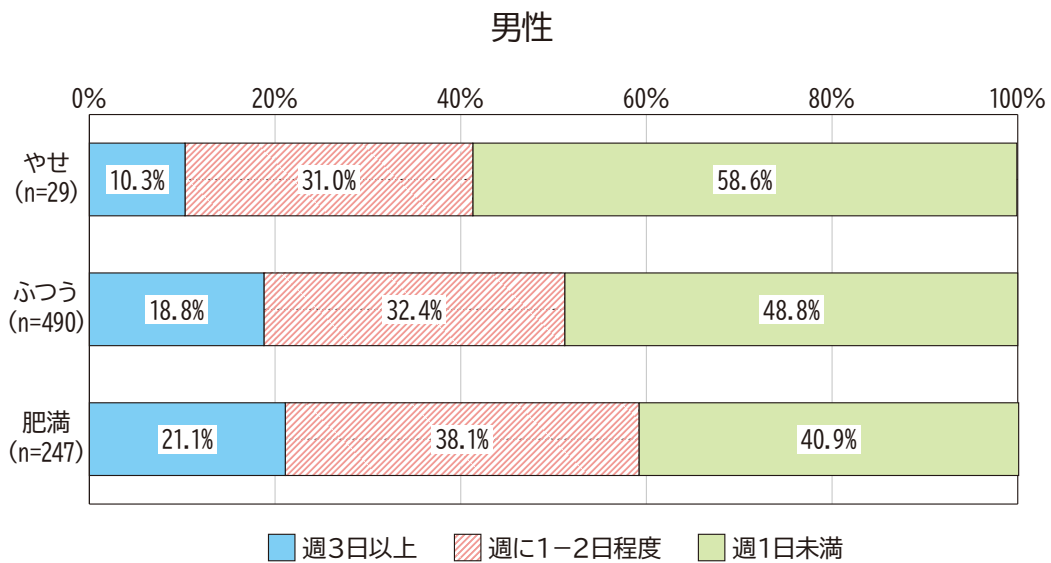


図6 男性の体格指数（BMI※）と外食・中食の利用頻度（大分県）

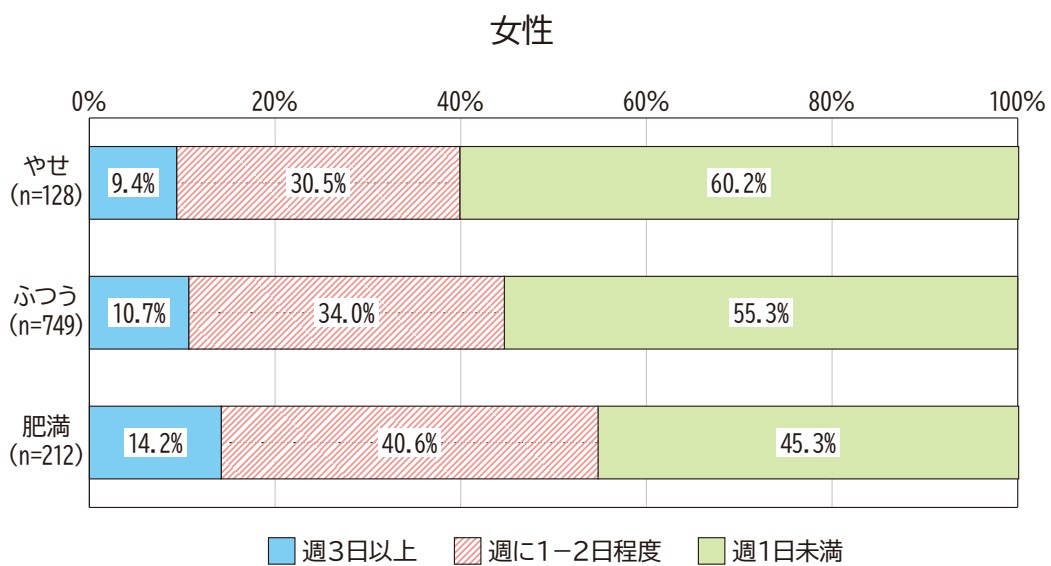


図7 女性の体格指数（BMI※）と外食・中食の利用頻度（大分県）

（3）食に関する志向

全国的な食の志向は、経済性、健康、簡便化が強く、その他の志向とは大きな差がみられます。また、経済性、簡便化志向は上昇傾向にあります。

一方、大分県食育推進アンケートによると、本県では、健康、経済性、安全性志向の順に高く、その中でも健康志向は、その他の志向とは大きな差がみられます。

健全な食生活に必要な知識の普及や食の安全・安心への理解促進を図ることが必要です。

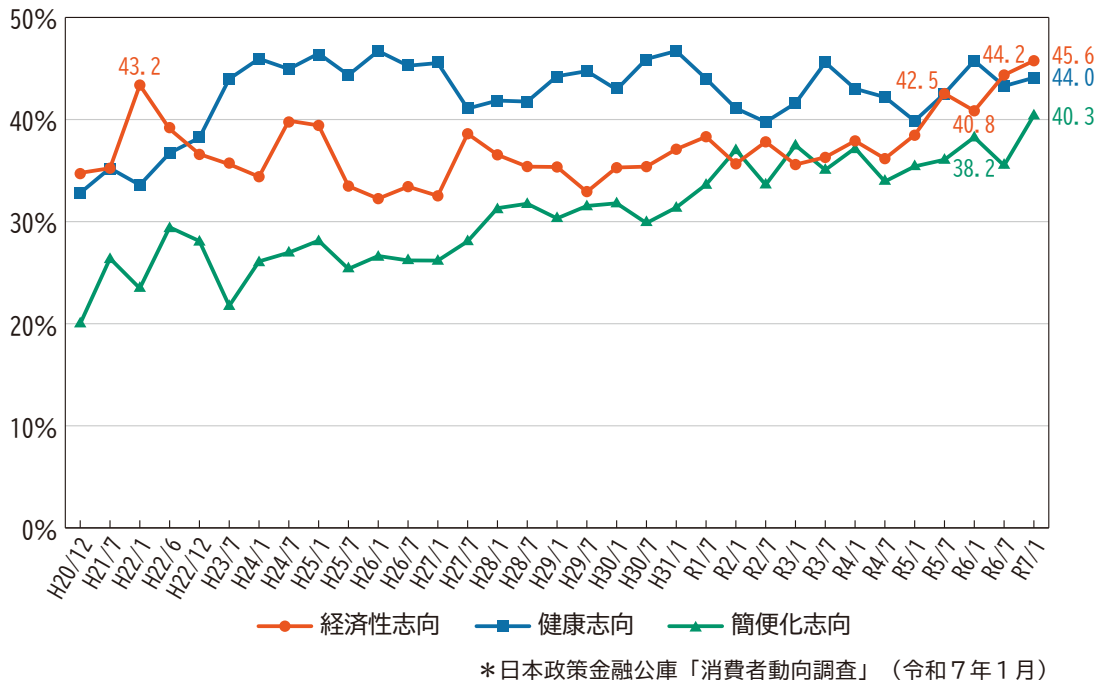


図8 食に関する志向の推移(全国)

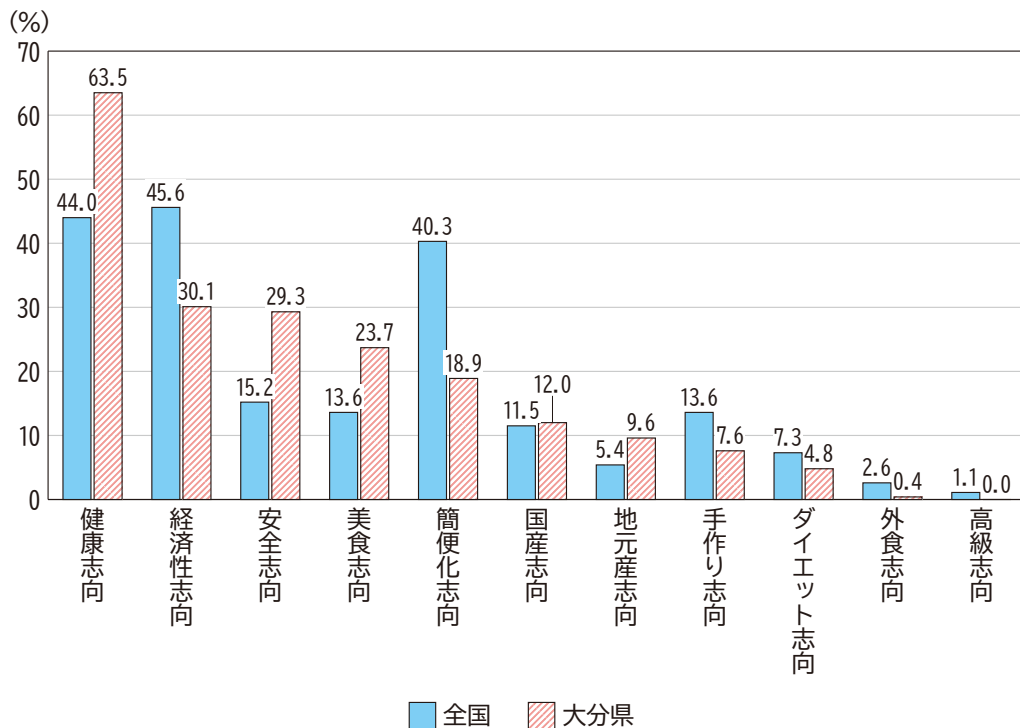


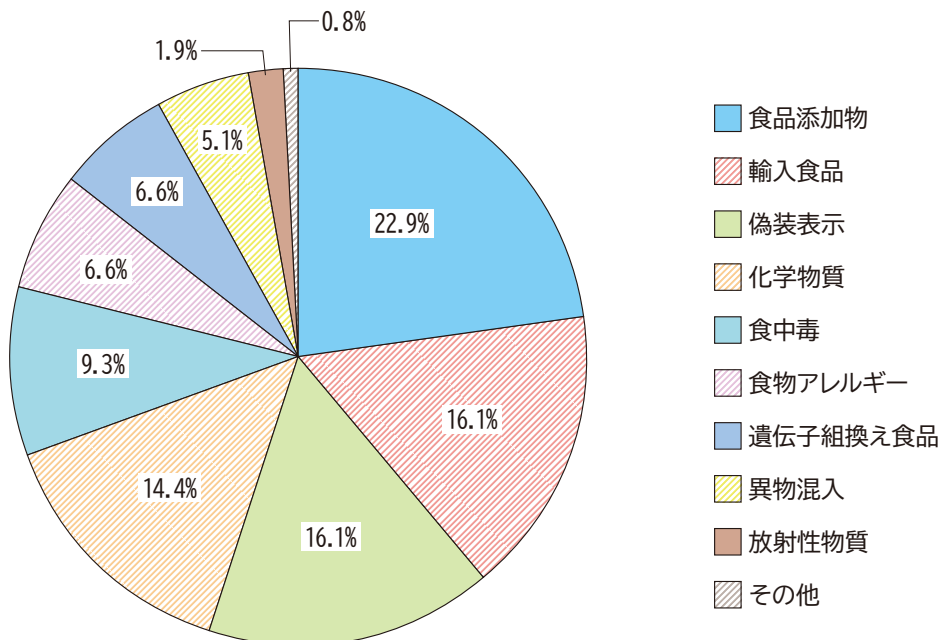
図9 食に関する志向(全国及び大分県)

4 食の安全・安心

生涯にわたって健康で豊かな生活を実現するためには、県民一人ひとりが食品衛生や食品表示に関する正しい知識と食を選択する力を習得することが必要です。

大分県食育推進アンケートによると70.8%の人が食品の安全性について不安を感じていることがあると答えています。その項目として「食品添加物」、「輸入食品」、「偽装表示」を選んだ人が多いという結果になりました。

また、食品の安全性に関する基礎的な知識が「十分にある」という人が11.3%いる一方、「あまりない」、「まったくない」という人は26.6%になりました。



*大分県「食育の推進に関するアンケート」(令和7年度)

図10 食品の安全性の観点から、不安に感じていること(大分県)

平成27年4月に、食品を摂取する際の安全性や消費者の自主的かつ合理的な食品選択の機会を確保するため、食品衛生法、JAS法、健康増進法の3つの法律の食品表示に係る規定を一元化した食品表示法が施行されました。

食品表示は、消費者と食品をつなぐ重要な役割を担っており、事業者の適正表示とあわせて、消費者の正しい知識と理解が必要です。

5 食の生産・消費

本県は、標高0mから1,000m近くまで耕地が分布し、耕地面積の約70%が中山間地域に位置するなど起伏の多い地勢にあり、地域の立地条件を生かした多様な農業と豊かな森林資源を生かした林業が盛んに行われています。

また、広大な干潟が広がる豊前海からリアス海岸の豊後水道まで、変化に富んだ海岸地形を有しており、各地域で特色ある水産業が営まれています。

(1) 農業の概要

農業経営体[※]数は減少傾向にあるものの、販売額3千万円以上の経営体数は増加傾向にあります。

また、2ha以上の経営体割合は増加しており、経営体の規模拡大が進んでいます。

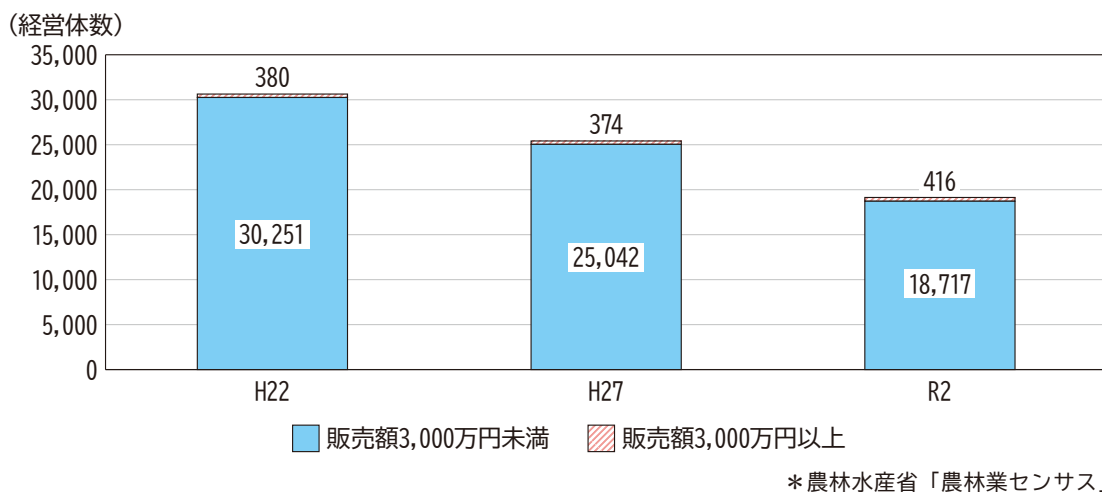


図11 農業経営体[※]数（大分県）

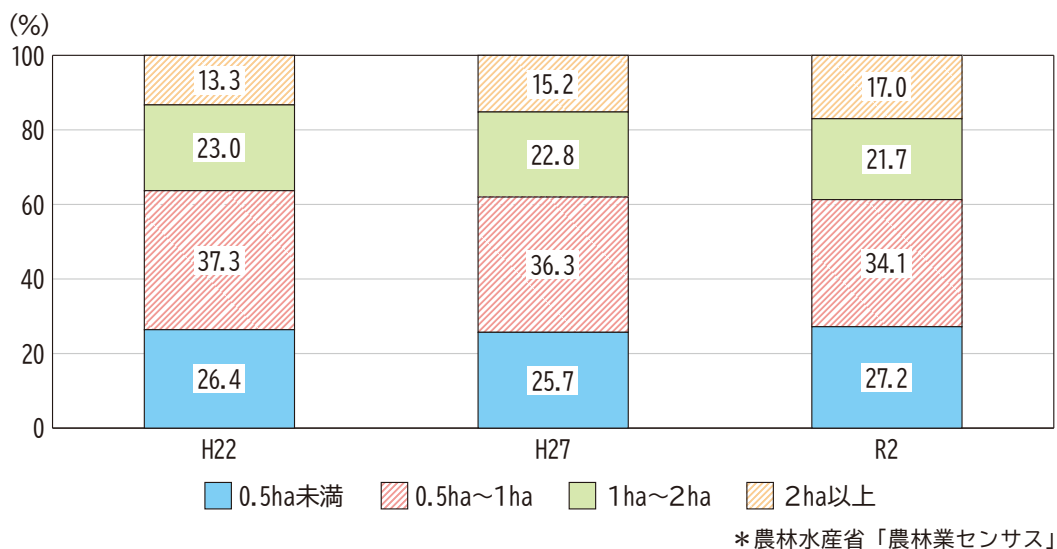


図12 経営耕地面積別の農業経営体[※]割合（大分県）

本県は主力品種の「ヒノヒカリ」や高温登熟耐性品種の「なつほのか」をはじめとした特色のある米づくりや、焼酎・味噌・醤油等地場の加工業者と結びついた麦・大豆の生産が行われています。

また、施設野菜のこねぎ・ピーマン・トマト・いちご、露地野菜の白ねぎ・高糖度かんしょ、柑橘類を中心とした果実、肉用牛を中心とした畜産が各地域で営まれています。

(2) 林業の概要

森林面積は約45万1千haで県土の71%、全国の1.8%を占めており、乾しいたけ^{ほし}の生産量は全国1位となっています。

(3) 水産業の概要

本県の海岸線の総延長は772km（全国14位）で、クルマエビやタチウオ、アジ、サバ、イワシ類等を対象とした漁船漁業やブリ類、ヒラメ、クロマグロ、二枚貝等の養殖業が盛んに営まれています。

また、水産加工業も盛んで、開きや丸干し、チリメン、イリコなどが生産されています。



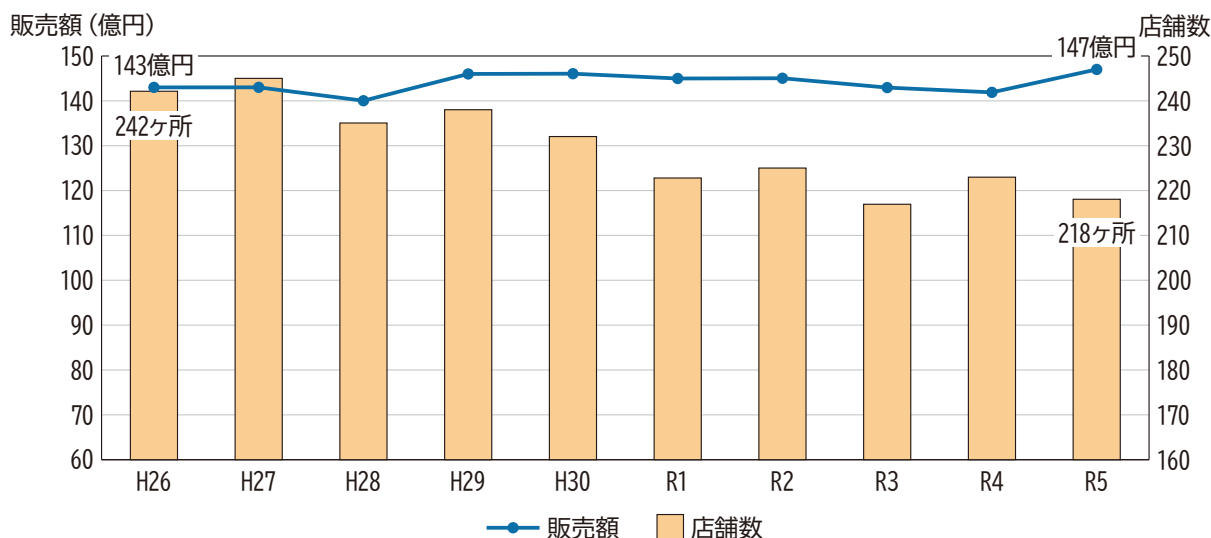
大分県で生産される主な農林水産物

(4) 地産地消^{*}の取組

本県には、市町村やJA、民間団体等が運営している農林水産物直売所が各地域にあり、直売コーナーを設けたショッピングモールやスーパー等も多数存在しています。なお、令和5年の農林水産物直売所の店舗数は218店舗、総販売額は147億円となっています。

直売所は、生産者と消費者の交流の場であるとともに、女性・高齢者等小規模農業者や定年退職者等の活躍の場となっています。

また、直売所は県外からの来客も多く、観光資源としても農山漁村地域の活性化に重要な役割を果たしています。



*大分県「農林水産物直売所等実態調査」(令和5年12月)

図13 直売所の販売額・店舗数の推移 (大分県)

(5) 学校給食の取組

学校給食における県産農林水産物の使用割合(重量ベース)は74.3%と高く、積極的に県内産が活用されており、米と牛乳は100%県内産です。

肉類、果実類も5割以上県内産が活用されています。

表2 学校給食用食材使用割合(重量ベース)(大分県)

食 材	総使用量 (kg)	県内産 (kg)	県内産活用率(%)
米	43,706	43,706	100.0
牛 乳	159,725	159,725	100.0
パ ン	16,389	3,109	19.0
肉 類	30,380	15,177	50.0
魚介類	10,278	4,356	42.4
卵 類	4,172	1,683	40.3
野菜類	92,835	46,149	49.7
果実類	9,929	5,812	58.5

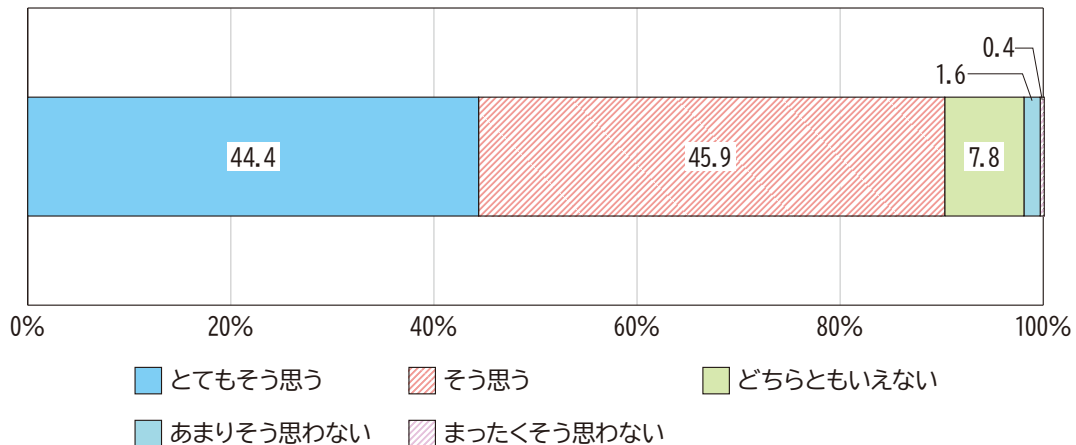
*大分県「令和7年度学校給食用食材の生産地調査集計結果」

6 食文化

本県には、豊かな自然環境で育まれる多彩な食材と、それを活用した豊かな味わいをもつ郷土料理などの食文化があります。

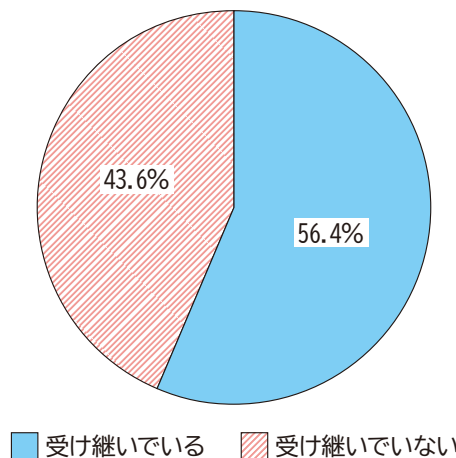
大分県食育推進アンケートによると、98.4%の人が大分県の郷土料理を知っていると答えており、知っている郷土料理としては「だんご汁」、「とり天」、「やせうま」、「りゅうきゅう」が多くなっていました。中には「唐揚げ」や「ニラ豚」といった料理もあげられており、新たな食文化が生まれていることもうかがえます。

また、郷土料理や伝統料理、作法などを受け継ぐことが大切だと思っている人は90.3%でしたが、実際に受け継いでいる人は56.4%にとどまっており、家庭や地域などで食文化を学ぶ機会づくりが必要です。



*大分県「食育の推進に関するアンケート」(令和7年度)

図14 郷土料理や伝統料理、作法等を受け継ぐことは大切だと思うか(大分県)



*大分県「食育の推進に関するアンケート」(令和7年度)

図15 郷土料理や伝統料理、作法等を受け継いでいるか(大分県)

7 食育に関する意識

食育の認知度や関心度は高く、実践する人も多い傾向にあります。

大分県食育推進アンケートによると、73.9%の人が「言葉も意味も知っていた」と答えています。

また、食育に「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」人の割合は89.1%で、その理由としては「こどもの心身の健全な発育のために必要だから」、「食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ等）が問題になっているから」と答えた人が多くいました。

一方、食育に「関心がない」、「どちらかといえば関心がない」と答えた人の理由として、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味など）で忙しいから」、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」と回答した人の割合が高くなりました。

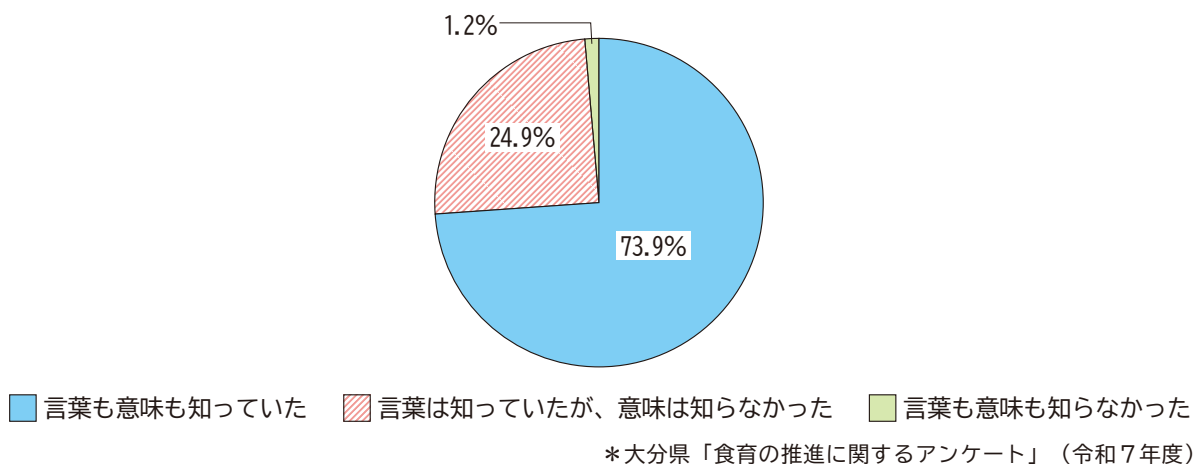


図16 食育の認知度（大分県）

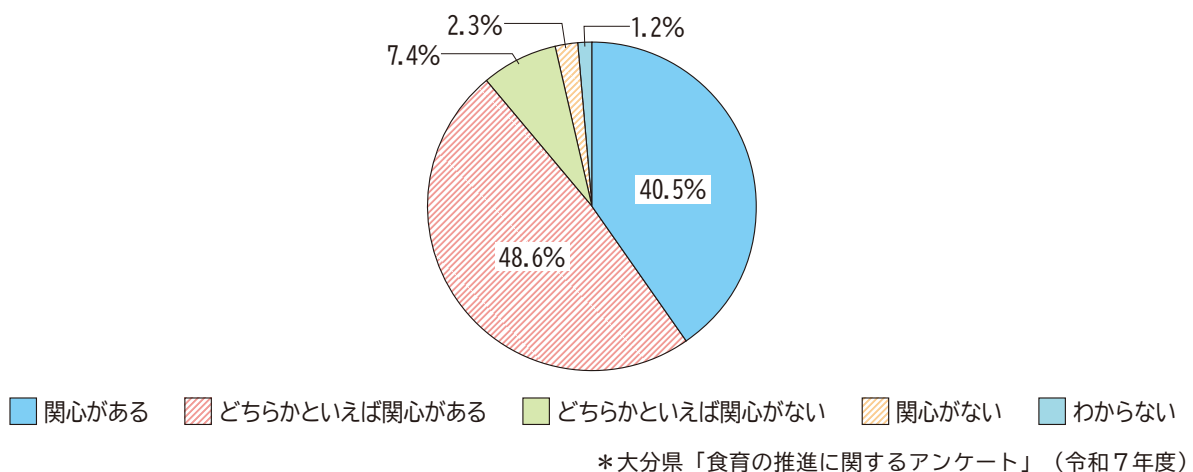
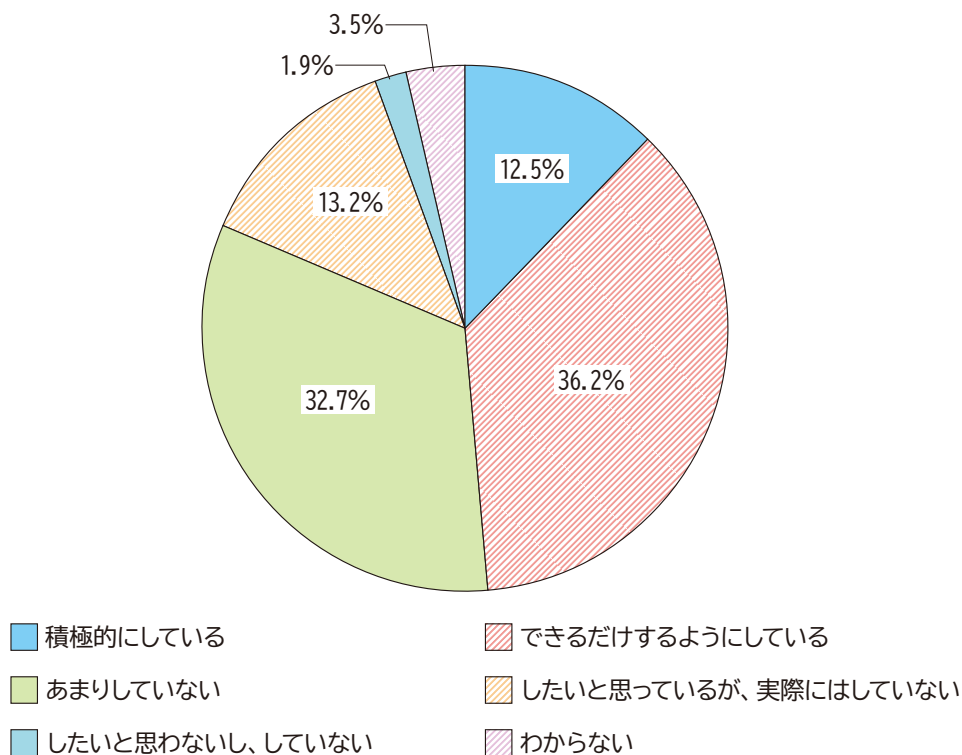


図17 食育の関心度（大分県）

さらに、日頃から「食育」を何らかの形で実践している人は48.7%いる一方で、6月の「食育月間」や11月19日の「おおいた食(ごはん)の日」などの食育啓発期間については、認知している人が20.2%から31.9%しかいないことから、周知が必要です。



*大分県「食育の推進に関するアンケート」(令和7年度)

図18 食育を実践しているか(大分県)

表3 食育啓発期間の認知度(大分県)

	認知している割合 (%)
食育月間(6月)	31.9
食育の日(毎月19日)	31.1
おおいた食(ごはん)の日(11月19日)	23.7
おおいた食育ウィーク(11月19日の週)	20.2

*大分県「食育の推進に関するアンケート」(令和7年度)